

情報連絡員総括表（2026年1月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI値 = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ±0.0 (=横ばい) で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 （回答者数 59 名：回収率 98.3%）

○2026年1月のDI値は、前月比で「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「雇用人員」の4指標が悪化した一方で、その他5指標は改善した。「収益状況」「業界の景況」の2指標は製造業、非製造業問わず改善傾向を示しており、景況感には持ち直しの動きがみられる。ただし、「販売価格」「取引条件」には依然として弱さが残り、本格的な回復局面入りとまでは言い難い状況である。

○「製造業」では、前月比で「売上高」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」「業界の景況」の5指標が改善し、その他4指標が悪化した。

「生産用機械器具」では「業界全体は回復基調との見方もあるが、取引先の発注は依然低調」との報告があり、短納期・低額案件でも受注せざるを得ないなど、取引条件の厳しさが窺える。

○「非製造業」では、「在庫数量」「収益状況」「雇用人員」「業界の景況」の4指標が改善し、その他4指標が悪化した。特に「収益状況」は前月比で15.1ポイント上昇しており、大幅な改善を示した一方、「販売価格」は前月比で29.0ポイント下落しており、収益面の持ち直しが先行する一方で、販売価格や取引環境にはなお不安定さが残る状況である。

「道路旅客」では、12月の運送収入が前年比プラス10.1%と運賃改定率並みの伸びを示すなど収益面の改善がみられた。一方で、年明け以降は需要が例年よりも弱いとの声もあり、需要環境には不安定さが残る状況である。

また、「職別工事」では、建設業法改正により契約面では明るい兆しがみられるものの、実際の着工は夏場まで閑散期が続く見通しとされ、受注・取引環境にはなお慎重な見方が広がっている。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2026年1月	-23.8	-6.8	16.9	-15.2	-28.8	-23.7	-26.7	-18.6	-33.9
2025年12月	-24.6	-14.3	38.6	-8.7	-42.1	-24.6	-38.0	-14.0	-43.8
増減	0.8 ↑	7.5 ↓	-21.7 ↓	-6.5 ↓	13.3 ↑	0.9 ↑	11.3 ↑	-4.6 ↓	9.9 ↑

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体				
		DI値		増減		DI値		増減		DI値		増減		
売上高	2026年1月	-33.3	8.1 ポイント	↑	-13.8	-6.6 ポイント	↘	-23.8	0.8 ポイント	↑	2025年12月	-41.4	-7.2	-24.6
	2026年1月	-6.7			-7.1			-6.8			2025年12月	-20.7	0.0	-14.3
在庫数量	2026年1月	-6.7	14.0 ポイント	↘	-7.1	-7.1 ポイント	↑	-6.8	7.5 ポイント	↘	2025年12月	-20.7	0.0	-14.3
	2026年1月	20.0			13.8			16.9			2025年12月	34.5	42.8	38.6
販売価格	2026年1月	20.0	-14.5 ポイント	↘	13.8	-29.0 ポイント	↘	16.9	-21.7 ポイント	↘	2025年12月	34.5	42.8	38.6
	2026年1月	-23.3			-6.9			-15.2			2025年12月	-13.8	-3.6	-8.7
取引条件	2026年1月	-23.3	-9.5 ポイント	↘	-6.9	-3.3 ポイント	↘	-15.2	-6.5 ポイント	↘	2025年12月	-13.8	-3.6	-8.7
	2026年1月	-33.3			-24.2			-28.8			2025年12月	-44.8	-39.3	-42.1
収益状況	2026年1月	-33.3	11.5 ポイント	↑	-24.2	15.1 ポイント	↑	-28.8	13.3 ポイント	↑	2025年12月	-44.8	-39.3	-42.1
	2026年1月	-23.4			-24.1			-23.7			2025年12月	-27.6	-21.5	-24.6
資金繰り	2026年1月	-23.4	4.2 ポイント	↑	-24.1	-2.6 ポイント	↘	-23.7	0.9 ポイント	↑	2025年12月	-27.6	-21.5	-24.6
	2026年1月	-26.7			-26.7			11.3 ポイント			↑	2025年12月	-38.0	-38.0
設備操業度	2026年1月	-26.7	11.3 ポイント	↑	-26.7	0.4 ポイント	↑	-18.6	-4.6 ポイント	↘	2025年12月	-38.0	-38.0	-14.0
	2026年1月	-26.7			-10.4			-18.6			2025年12月	-17.3	-10.8	-14.0
雇用人員	2026年1月	-26.7	-9.4 ポイント	↘	-10.4	0.4 ポイント	↑	-18.6	-4.6 ポイント	↘	2025年12月	-17.3	-10.8	-14.0
	2026年1月	-36.7			-31.0			-33.9			2025年12月	-51.8	-35.8	-43.8
業界の景況	2026年1月	-36.7	15.1 ポイント	↑	-31.0	4.8 ポイント	↑	-33.9	9.9 ポイント	↑	2025年12月	-51.8	-35.8	-43.8

今月の業種別回答件数

	売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況			
	増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化		
食料品	0	1	1	1	2	1	0	1	0	2	0	2	0	1	0	0	0	1		
繊維工業	1	0	0	1	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0		
木材・木製品	0	3	0	1	0	2	0	2	0	4	0	1	0	3	0	2	0	3		
紙・紙加工品	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1		
印刷	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
窯業・土石製品	0	3	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	2		
鉄鋼・金属工業	1	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1		
一般機器	1	2	1	0	1	0	0	1	0	2	0	1	1	0	0	1	0	1		
電気機器	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0		
輸送用機器	2	2	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	1	2	0	1	1	2		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
卸売業	0	2	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	X	X	0	0	0	2		
小売業	2	1	0	0	2	1	0	0	0	2	0	2			0	0	0	0	2	
商店街	1	2	0	0	2	1	0	1	0	1	0	2			0	1	0	2		
サービス業	1	1	X	X	1	0	0	2	0	1	0	0			1	1	0	1		
建設業	0	3			0	0	0	0	0	2	0	1			0	2	0	2	0	2
運輸業	2	1			0	0	0	0	0	1	1	0			1	0	1	0	0	0

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産	製品相場の下げによって売上高・利益が大幅に減少した。人件費の高騰やエネルギーコストの高止まりの影響もあるが、例年同様の状況ではあるので、年明けから決算月までに盛り返すと見込んでいる。
織物業	受注総量は大きな変化なし。綿、絹、麻織が供給能力不足のため平準化して生産が続く。
印刷・同関連	昨年後半から外注先の廃業や休業によって、仕事の流れが変わり苦戦している。比較的大きな案件のズレを埋めきれないため減収している。印刷物以外のサービスの値上げ、または単価の高い新規顧客の獲得により堅調。
骨材・石工品等	1月は売上高が前年同期より減少し、収益状況も悪化している。在庫数量は増加している。
金属製品	半導体不足による生産調整が行われている。
生産用機械器具	業界全体の市況および受注動向は回復基調との見方もあるが、当組合員の取引先においては十分な回復には至っておらず、発注状況は依然として低調な状況が続いている。そのため、短納期かつ低額の発注であっても受注せざるを得ない状況にある。
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none">・ 12月の民生用電気機器の業界統計では国内出荷金額は4ヵ月連続のプラスとなった。ルームエアコンは4ヵ月連続のプラス、電気冷蔵庫は3ヵ月連続のマイナスだった。2025年計では全国的な暑さによるルームエアコンの好調もあり2年連続のプラスであった。・ 1月の生産は、電気冷蔵庫は販売の低迷によりマイナスであったが、家庭用エアコンは寒さの到来により販売は好調に推移しており、生産はプラスとなった。業務用エアコンは昨年並みが続いている。
輸送用機械器具	ガソリンが多少下がっただけで変わらずの物価高であり、円安になっても輸出企業が潤うのみで、日本の購買力は落ちる一方である。

非製造業

セメント	2025 暦年（1～12月）の国内販売は前年比▲6.5%減で推移。今年1月の国内販売は20日現在で1日当たり1.0%増とプラス基調で推移しているが、下旬の寒波の影響が懸念される。25 暦年は官需の落ち込みをはじめ常態化する建設現場の人手不足による工期の長期化、建設コスト高騰に起因する計画見直し等により、底打ち兆しが見えない状況。
各種商品	販売量の前年比減。日中問題、円安、気候変動等の影響がみられる。
鮮魚	原材料価格の高止まり、人件費の上昇で収益環境は依然として厳しい。今後も一段と厳しさを増すと思われる。
商店街	仕入れ原価の高騰に歯止めがきかない状況。
	物価高の影響がナショナルチェーンであるスーパーの方に消費者が流れている感じがしている。
宿泊業	1月は前半にあった3連休以降、宿泊人員が伸びず週末も空室があった。インバウンドのお客を含め、遠方からのお客様がほとんどいなかった。中国からのお客様がいなくなり、宿泊者数も前年比減の状況が続いているが、一方で、国内からのお客様は、前年並みである。
	年末年始は日本人旅行者を中心に順調に推移したが、中国政府による日本への渡航自粛勧告でインバウンドが減少した。1月後半は衆議院の解散による総選挙となり、観光業界にとって逆風の状況となった。
総合工事	未だに厳しい状況が続いており、仕事量が著しく減少傾向にある。物価価格は上がる方向に対して、受注金額は下がる一方である。また、適正価格に戻すのは時間を要すると感じている。
職別工事	建設業法改正により契約自体は明るい兆しが見えてきたが、実際の着工となると、夏場まで閑散期が続く見通し。
道路貨物	2024年から続く労働規制への対応に加え、新たな法的規制の施行と4月に控える「物流2026年問題」への準備が重なる極めて重要な局面を迎えている。旧下請法が改正され、中小受託取引適正化法が2026年1月1日より施行された。これにより、荷主から運送業者への委託が「特定運送委託」として規制対象に加わり、荷待ちや荷役作業の不当な押し付けが厳しく制限される。不公正な商慣行の是正が求められ、運送事業者は適正な運賃収受や契約の書面化に向けた体制整備を急いでいる。2026年4月に施行される「改正流通業務総合効率化法」により、一定規模以上の荷主（特定事業者）に対し、物流効率化の中長期計画策定や物流統括管理者（CLO）の選任が義務化される。1月時点では、これら特定荷主による物流網の再構築や、運送業者との契約見直しがピークを迎えている。
道路旅客	12月の運送収入対前年比はプラス10.1%で、11月に実施した運賃改定率の10.2%に近い数値となった。輸送人員については年末繁忙期を迎え、天候に恵まれことが功を奏したためか100.4%とわずかに上昇した。年が明けて1月2月は需要が下がる傾向が見られるが、出だしは例年よりも落ちているとの声が聞かれる状況。好調が続くインバウンドの流れを引き寄せる対策に期待したい。

4. 主要三指標における DI 値の推移

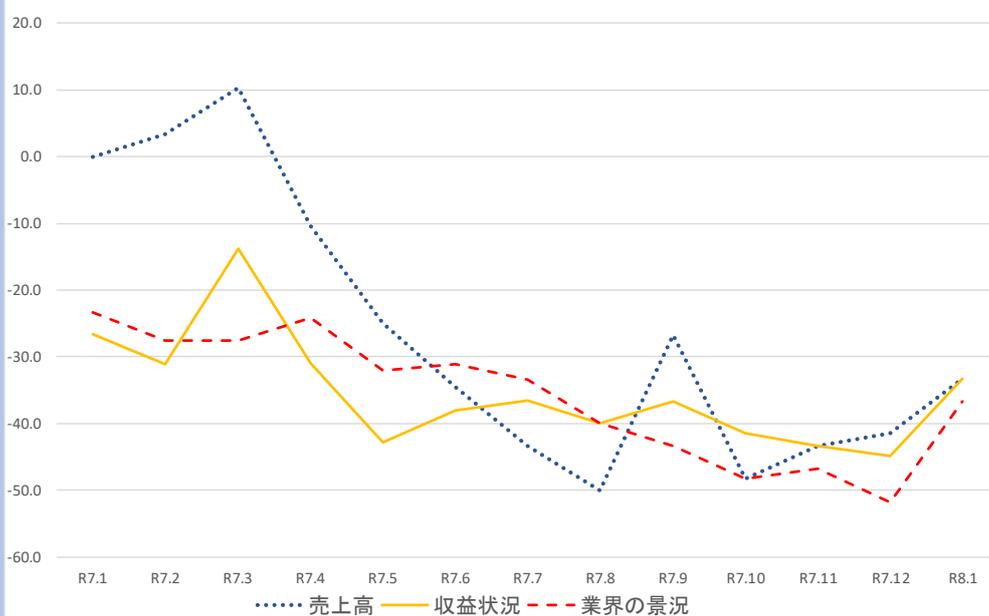
■2025年1月期～2026年1月期までの推移

全体	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1
売上高	3.4	3.4	-3.5	-21.1	-23.6	-22.1	-29.4	-26.6	-11.7	-23.8	-28.3	-24.6	-23.8
収益状況	-25.4	-22.4	-17.9	-33.3	-25.5	-25.4	-32.8	-33.3	-25.0	-27.1	-33.3	-42.1	-28.8
業界の景況	-25.4	-34.5	-32.2	-29.8	-29.1	-30.5	-32.8	-33.4	-36.6	-40.7	-41.6	-43.8	-33.9

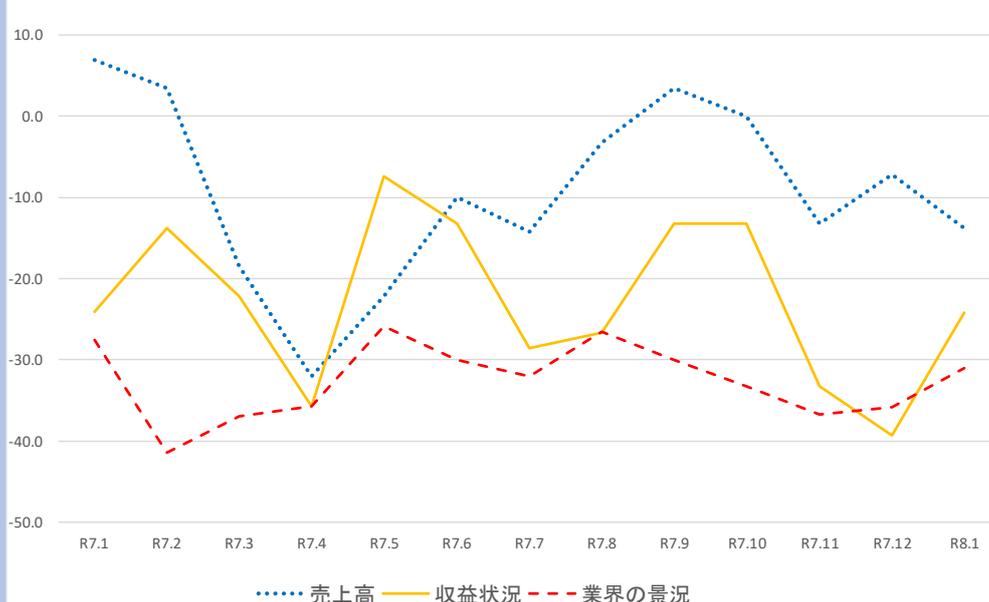
製造業	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1
売上高	0.0	3.4	10.3	-10.4	-25.0	-34.5	-43.3	-50.0	-26.7	-48.3	-43.3	-41.4	-33.3
収益状況	-26.6	-31.1	-13.8	-31.0	-42.8	-38.0	-36.6	-40.0	-36.7	-41.4	-43.4	-44.8	-33.3
業界の景況	-23.3	-27.6	-27.6	-24.2	-32.1	-31.1	-33.4	-40.0	-43.3	-48.3	-46.7	-51.8	-36.7

非製造業	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1
売上高	6.9	3.4	-18.5	-32.1	-22.2	-10.0	-14.3	-3.3	3.4	0.0	-13.3	-7.2	-13.8
収益状況	-24.1	-13.8	-22.2	-35.7	-7.4	-13.3	-28.6	-26.7	-13.3	-13.3	-33.3	-39.3	-24.2
業界の景況	-27.6	-41.4	-37.0	-35.7	-25.9	-30.0	-32.1	-26.6	-30.0	-33.3	-36.7	-35.8	-31.0

【製造業 DI 値】



【非製造業 DI 値】



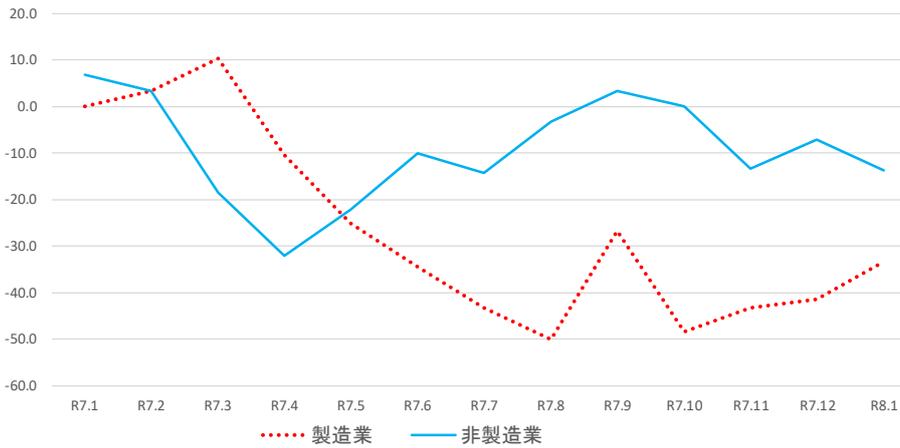
■2025年1月期～2026年1月期までの推移

売上高	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1
製造業	0.0	3.4	10.3	-10.4	-25.0	-34.5	-43.3	-50.0	-26.7	-48.3	-43.3	-41.4	-33.3
非製造業	6.9	3.4	-18.5	-32.1	-22.2	-10.0	-14.3	-3.3	3.4	0.0	-13.3	-7.2	-13.8

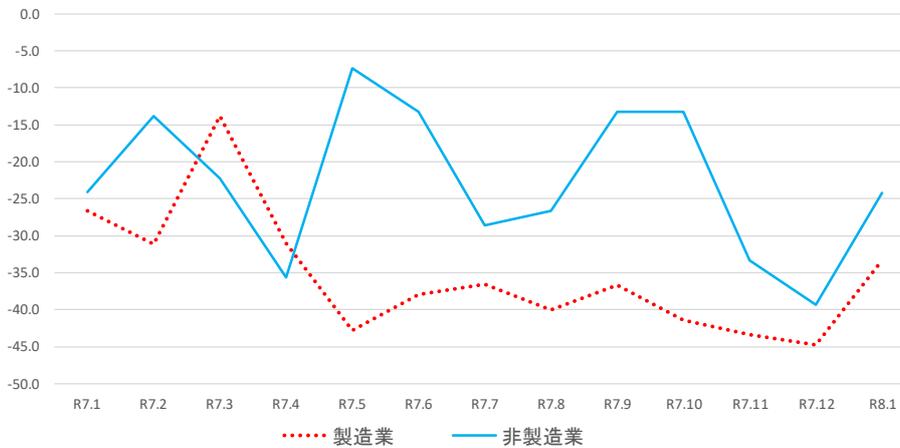
収益状況	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1
製造業	-26.6	-31.1	-13.8	-31.0	-42.8	-38.0	-36.6	-40.0	-36.7	-41.4	-43.4	-44.8	-33.3
非製造業	-24.1	-13.8	-22.2	-35.7	-7.4	-13.3	-28.6	-26.7	-13.3	-13.3	-33.3	-39.3	-24.2

業界の景況	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1
製造業	-23.3	-27.6	-27.6	-24.2	-32.1	-31.1	-33.4	-40.0	-43.3	-48.3	-46.7	-51.8	-36.7
非製造業	-27.6	-41.4	-37.0	-35.7	-25.9	-30.0	-32.1	-26.6	-30.0	-33.3	-36.7	-35.8	-31.0

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値】

